



学校訪問を終えて

本年度も5月下旬から、玉名管内全ての小・中学校を訪問させていただきました。子供たちや先生方のさわやかな挨拶、情操を育む四季折々の花壇の花や工夫が凝らされた掲示物、元気よく運動場で遊んだり楽しそうに給食を食べたり、生き生きと学習に取り組んだりしている子供たちの姿、そして、登下校時の地域の方々の温かい見守りの様子などを参観させていただくことを通して、学校と家庭と地域とのつながりの中で子供たちが育っていると実感しました。

授業を参観させていただくと、先生方は、子供たちを学びの主体として導かれるために様々な工夫をされていることがわかりました。その中で、改めて強く感じたことは、授業における先生方の「表情の豊かさ」が子供たちにとってはとても大切ではないかということです。先生方の笑顔や褒め言葉・励ましの言葉のシャワーは、子供たちが安心して授業に向かったり、学習意欲を向上したりするための何より大切な要素であると思いました。笑顔だけではなく、目的や場面・状況に応じて、先生方の真剣な顔つきであったり、大きくはつきりとした声であったり、子供たちを惹きつけるために少しボリュームを抑えながらゆっくり話される様子であったり、そのような先生方の「表情の豊かさ」は、例えれば、ICT機器、導入の工夫、学び合い活動などと同じように子供たちの学習意欲を喚起するための重要なアイテムの1つだと思いました。そして、このことが「人権が尊重される授業づくり」へ通じていくのではないかとも思いました。

次年度も引き続き、訪問させていただいた学校のよさや素晴らしさを先生方と共有できる学校訪問となりますように、市町教育委員会と連携を図りながら支援させていただきたいと思います。



「学力向上に向けた取組」の推進を

本県では、「熊本の学び推進プラン」を令和元年12月に策定し、「熊本の学び」の理念である「熊本のすべての子供たちが、学ぶ意味を問い合わせながら、能動的に学び続ける力を身に付ける」ことを目指しています。各学校では児童生徒を学びの主体とするために、玉名教育事務所指導の重点にもあります「導入の工夫」、「展開の工夫」、「定着の工夫」に取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。

また、全学調の結果を受け、県学調に向けて「読解力（読み取る力）」の向上にも取り組んでいただきました。次の検証の機会となる令和8年度全学調に向けて、引き続きお取り組みいただきますようお願いいたします。

重点指標

- 【重点指標1】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- 【重点指標2】自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
- 【重点指標3】授業の内容はよく分かりますか。



重点取組

【教科書を使いこなす】

- 児童生徒が教科書を使って自分で学べるよう、教科書の構成と使い方を理解させる。
- 教科書等の本文、グラフや図など、各教科における読み方を身に付けさせる。



【学習用語を理解する】

- 学習用語は、個人思考、対話、発表、まとめ、振り返り等で、繰り返し使わせる。

【読み取る力を高める】

- 学力調査などの結果や授業の見取りから、児童生徒の読み取る力の実態を把握する。
- 読み取ったことを教科書等に線を引いたり、それを使ってノートに書いたり伝えたりする場面を設定する。

誰一人取り残さない学びの保障と「児童生徒を学びの主体」とする授業力の向上、そして「笑顔輝く子供」を目指し、今後とも引き続き、効果的かつ組織的な取組を推進していきたいと思います。